

# 創薬・サイクロトロン研究所 建設工事順調に進む 本体立上げ 来春オープンへ

郡山市八山田の総合南東北病院管理棟の西側に(一財)脳神経疾患研究所が建設中の「(仮称)南東北創薬・サイクロトロン研究所」は順調に工事が進み、6月から本体立上げに入りました。予定通り来年1月完成、4月オープンの見通しです。



大型ポンプ車を使って行われた1階床のコンクリート打設工事 5月31日

同研究所は、南東北BNC T研究センターで治療中のBNC T(ホウ素中性子捕捉療法)の適応診断や効果予測のPET薬剤の研究、認知症の予兆や発症の可能性など、超早期診断につながるPET薬剤の研究に取り組んでいます。

鉄筋コンクリート造り地下1階、地上2階建てで、延べ床面積は約1300㎡。総事業費は約20億円で、安藤・間東北支店が工事を請け負い、昨年12月に着工しました。5月31日(木)には1階床の打設工事を行いました。280㎡(生コン車70台分、重さ644トン)のコンクリートが搬入され、長いホースの付いた2台の大型ポンプ車を使って流し込みました。この日の段階で工事の進捗率は約18%に達しています。

## 乳幼児に多い中耳炎 かぜがひきがねに 滲出性は放置すると 重篤化も

乳幼児に多い病気に中耳炎があります。特にかぜをひいたときは中耳炎になりやすいので内科だけでなく、耳鼻咽喉科も合わせて受診するとよいでしょう。

耳の中は、鼓膜によって外耳と中耳に分けられています。中耳がウイルスや細菌に感染することで炎症を起こした状態が中耳炎です。感染経路は耳と繋がっている鼻や喉です。かぜをひくと増殖した鼻や喉のウイルスや細菌が、耳管という中耳と鼻を結ぶ管を通じて中耳に入ってきます。

急性中耳炎が起こると、中耳に膿が溜まるため、聞こえが悪くなるだけでなく、耳に激しい痛みを感じます。乳幼児は痛みを伝えることができませんが、耳から膿が出ていたり、機嫌



が悪くしきりに耳に手をやったりするようであれば、急性中耳炎も考えられます。急性中耳炎は突然発症することもあります。きちんとした治療を受ければ、約1週間で病気のピークは去ります。ただ、ピークが去った後も中耳には膿が残っていて、完全に膿が無くなるには3カ月程度かかります。

滲出(しんしゅつ)性中耳炎は、この急性中耳炎の

ピークが去った後に発症することが多くある病気で、中耳に滲出液が溜まってしまふことで起こります。急性中耳炎との大きな違いは、滲出性中耳炎の場合は、痛みがほとんど無いことです。

滲出性中耳炎の主な症状は、難聴です。乳幼児は自覚症状を自分で周囲に伝えられないため発見が遅れるケースが多々あります。適切な治療をせず、滲出性中耳炎を放置すると症状が慢

性化したり重篤化したりする恐れがあります。滲出性中耳炎は、治療することで非常に高い確率で完治が期待できます。ただ治療には、ある程度(3カ月から数年)の治療期間がかかります。理由は滲出性中耳炎になる子どもの場合、鼻や喉に何らかの病気があることが多く見られるからです。滲出性中耳炎の治療では、耳のほか鼻や喉の治療を同時に行っていくことが必要です。

滲出性中耳炎の耳治療では中耳に溜まる滲出液を取り除く治療が行われます。

◆鼓膜切開 鼓膜を切開して中耳に溜まった滲出液を外に出す治療法。鼓膜を切開した後、滲出液を吸引して除去します。鼓膜の穴は、治療の後数日で塞がります。

◆チュービング 鼓膜切開によって除去しても、しばらくすると再び滲出液が溜まってしまふ子どもの場合、切開した鼓膜に直径1mm程度のチューブをはめて対処します。この治療法が選択された場合、チューブを入れている期間は、耳に水が入らないように注意を払う必要がありますが、聴力に問題はありません。